令和元年度　学力向上先進地域視察研修報告　（埼玉県・久喜市教育委員会、羽生市立羽生北小・羽生南中学校）

Aグループテーマ:「学力の基盤づくりとなる取組」

取組の実際

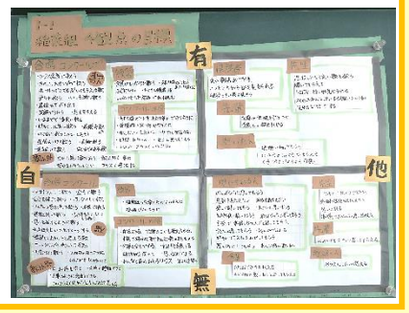
※各グループのテーマは、学力向上プランの5つの視点に基づいています。

◇ R－PDCAサイクルを活用した学び残しをなくす取組

・全国及び埼玉県の学力調査（4月）の結果を分析し（7、8月）、成果のあった取組（よい取組）を各学校で共有する。また、よい取組を参考に、各学校で授業改善計画を作成する（9月）。
・各調査結果から課題のあった問いを取り上げ、課題を克服するために各教科で取り組めることを洗い出し、実践している。
・羽生市学力アップテスト（12月）の結果をもとに、児童生徒の学び残しを分析し、学び残しの復習を重点的に行う（1月～3月）。

◇ 学級経営を基盤とした学力向上の取組

・「学力」を、「目に見えない、これからを生きる力、生き抜く力」ととらえ、特別活動を重視した学級経営を行っている。その際、子どもたちが何をやりたいのかを見定め、それを自主的・実践的な活動につなげることで、学級経営の充実を図っている。
・学校の教育目標の実現に向けて、全クラスが学年、学級の実態に応じて目標を設定し、同じ方向を向いて取り組んでいる。



今後、各学校で実践していきたい取組

【教務担当主幹教諭として】
○4月の全国学力・学習状況調査及び6月の福岡県学力実態調査の結果について、学力層ごとに課題を分析し、効果のあった取組（よい取組）や授業改善の視点を明確にする。
○各調査結果の分析をもとに児童生徒の学び残しをなくすための R-PDCAサイクルを計画し、夏季休業中に全職員で共通理解を図る。
○校内研修担当や学力向上コーディネーターと連携し、各調査結果を全教職員で共通理解を図る校内研修を計画する。

【校内研修担当・学力向上コーディネーターとして】
○夏季休業中に、調査結果を学校の課題としてとらえ、課題を克服するために何ができるかをそれぞれの立場（担任、教科担当等）で考え、9月以降の授業実践につなげるための校内研修を行う。

【学年主任・学級担任として】
○学校の教育目標をもとに、4月に学年及び学級で育てたい力を明確にして学年経営案・学級経営案を作成し、実践する。また、特別活動を通して、学び合う集団づくりに取り組む。

共通テーマ「授業づくりについて」

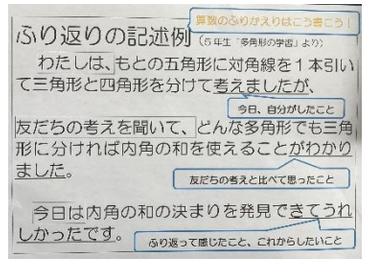
取組の実際

◇ 小中9年間で統一された1単位時間の授業構成

・児童生徒が見通しをもって授業に取り組むことができるように、小中9年間で「つかむ→考える→伝え合う→振り返る」という授業の流れを統一している。
・学びの質を高めより深い学びになるように、目的に応じて「伝え合う活動（ペア、4人、フリー等）」の形態を工夫し、授業に取り入れている。
・小学校から「伝え合う活動」に取り組むことで児童は着実に説明する力を身につけており、中学校での活動が充実したものになっている。

◇ 振り返り活動の充実

・算数において、児童が自分の学びの状態を「ステップ1：分からない→ステップ2：分かった→ステップ3：説明できる」の三段階で振り返り、評価することで、教師は理解が十分にできていない児童への重点指導を行うことができる。
・1単位時間の終末に振り返りの時間を設定し、本時で学んだことを課題に沿って表現させることで、学びの定着を図っている。
・振り返りに書かせる内容や書き方などを例示することによって、振り返りの内容を充実させ、書く力、表現力の育成を図っている。



今後、各学校で実践していきたい取組

【校内研修担当者として】
○年間の研究授業や授業公開週間等を計画し、1単位時間の授業構成や振り返り活動について共通理解するとともに、よい授業、よい取組を広げる。
○授業を参観する視点（授業者の工夫）を明確にし、その視点に基づいた授業協議会を行うことで、授業を具体的に分析し、効果のある指導方法について共有する。

【担任・教科担当として】
○全授業に振り返り活動を位置づけ、本時で学んだことについて自分の言葉でまとめさせる。その際、書く内容について、発達段階に応じて具体的に例示（自分がしたこと、友だちの考えと比べて思ったこと、振り返って感じたこと、これからしたいこと等）することで、学びの定着を図り、次時への学習につなげる。
○振り返りをもとに、児童生徒の学びの状態を細かに把握・分析し、次時からの授業改善に生かす。

【先進地域視察研修を通して実感したこと】
○　各調査結果の分析（学力階層ごとの課題の分析、経年比較等）を細かに行い、児童生徒の伸びやつまずきを見取り、授業改善に生かすことが大切である。
○　児童生徒の学力の課題や質問紙の結果等を学校全体の課題としてとらえ、全教職員で課題克服に向けて取り組むことが大切である。
○　R-PDCAサイクルに則り、よい取組を行っている授業等を分析し、全教職員で共通理解し取り組むとともに、学び残しをなくす取組を行うことが大切である。